

Ⅲ 競技スポーツ

1 競技スポーツの概要と本県の取組

競技スポーツは、より速く、より高く、より強く、より美しくを目標とするスポーツである。勝つことや記録に挑戦するために「技と力」を磨き、能力の極限に立ち向かう活動であり、新たなスポーツ文化の創造・発展に多大な貢献をしている。

国民体育大会等の各種大会での本県選手の活躍は、県民に明るさと活力を与え、本県スポーツの振興に大きく寄与している。このため、本県では、優れた能力を持つジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の養成、スポーツ医・科学の活用等により、高い競技力を持つ選手の育成に取り組むとともに、千葉県民体育大会の開催、各種スポーツ大会の後援、スポーツ団体の育成等をとおして、本県競技力の恒常的な維持・発展に努めている。

こうした中、平成17年の全国高等学校総合体育大会「2005千葉きらめき総体」、平成22年の第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」に向け、本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう、選手強化の中核的組織として、平成14年3月に千葉県競技力向上推進本部を設立し、関係団体と連携を図りながら長期的・計画的な取り組みを推進した。

その結果、「2005千葉きらめき総体」では過去最高の入賞数を獲得、「ゆめ半島千葉国体」では、天皇杯・皇后杯獲得による完全優勝を達成し、選手と地域が一体となって「日本一」を味わい、県民に大きな感動を与えるとともに、この国体の成功を背景に、「千葉県体育・スポーツ振興条例」が制定されるなど、スポーツ振興の総合的かつ計画的な施策も推進された。

これらの成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげるため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、国民体育大会の上位入賞と未来のアスリートの発掘・育成・強化に努め人々に感動を与える競技力の向上に取り組んでいく。

2 スポーツ大会の開催

(1) 県民体育大会の開催

県民体育大会は、昭和23年度から66回の歴史を有し、広く県民の間にスポーツを普及し県民の健康増進と体力の向上を図り、県民生活を明るく豊かにすることを趣旨に開催されている。大会には県体育協会加盟33郡市体育協会から約10,000人余が参加し、地域の代表が力と技を競う、本県最大の競技スポーツの祭典として県民に親しまれている。平成元年度から平成14年度までは、県内5地域を巡回、平成15年度からは全国高校総体及び国民体育大会の会場で開催することとなった。平成17年度は高校総体、平成21年度・22年度は国民体育大会のため休止したが、平成23年度第61回夏季・秋季大会から再開される。なお、再開に当たり、大会規模の見直しや、受益者負担や広告協賛など、新たな大会運営を導入している。

県民体育大会男子・女子成績

開催年度	23	24	25	26	27	28
回数	61	62	63	64	65	66
男子優勝	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉
女子優勝	千葉	市川	千葉	千葉	千葉	千葉

県民体育大会 男女総合成績

開催年度	23	24	25	26	27	28
回数	61	62	63	64	65	66
1位	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉
2位	船橋	松戸	松戸	船橋	松戸	船橋
3位	柏	市川	船橋	松戸	船橋	市川

競技別成績(男子)

性別	競技	開催年度	21	24	25	26	27	28	
		回数	61	62	63	64	65	66	
男	スキー		柏	柏	野田	柏	柏	柏	
	スケート		船橋	市川	千葉	千葉	松戸	千葉	
	水泳		市川	市川	千葉	千葉	市川	千葉	
	ヨット		船橋	館山	浦安	千葉	館山	柏	
	ボート		香取	香取	香取	香取	香取	香取市	
	陸上競技		千葉	印旛郡	千葉	千葉	船橋	千葉	
	バレーボール		山武郡	千葉	君津	松戸	君津	千葉	
	クレー射撃		印旛郡		印旛郡	千葉	印旛郡	山武郡市	
	体操		船橋・習志野	香取	香取	千葉	船橋	市原	
	相撲		木更津	木更津	木更津	木更津	木更津	木更津	
	テニス		松戸	松戸	印旛郡・松戸 船橋・千葉	印旛郡	松戸	松戸	
	軟式野球		市川	市川	浦安・袖ヶ浦 茂原・香取	茂原	柏	茂原	
	卓球		千葉	松戸	千葉	松戸	千葉	市川	
	弓道		松戸	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	
	ソフトボール		松戸・市原 印旛郡市・流山	印旛郡	柏・印旛郡 松戸・千葉	船橋 松戸	松戸	松戸	
	柔道		千葉	千葉	市川	船橋	船橋	船橋	
	剣道		浦安	千葉	市川	勝浦	木更津	木更津	
	ソフトテニス		山武郡	千葉	山武郡・松戸 市川・千葉	松戸	松戸	市川	
	子	バドミントン		野田	千葉	野田	野田	柏	柏
		サッカー		船橋	千葉	船橋・市川	船橋	市原	市川
ラグビー フットボール			千葉 松戸	船橋 松戸	浦安 船橋	千葉 市川	千葉 船橋	千葉 船橋	
バスケットボール			印旛郡	印旛郡	市原・千葉	市原	習志野	習志野	
ハンドボール			市川	市川	習志野	市川	市川	市川	
ボクシング			市原	習志野	野田	習志野	習志野	習志野	
フェンシング			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	
レスリング			野田	千葉	千葉	野田	千葉	柏	
空手道			市川	浦安	習志野	浦安	浦安	流山	
ライフル射撃			印旛郡	茂原	印旛郡	千葉	印旛郡	印旛郡市	
銃剣道			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	
自転車			千葉	千葉	千葉	松戸	千葉	印旛郡市	
山岳			船橋	印旛郡	千葉	印旛郡	船橋	船橋	
ホッケー			いすみ	いすみ		山武郡	市川	市川	
ウエイトリフティング			八千代	八千代	八千代	八千代	八千代	八千代	
アーチェリー			浦安	市川	松戸	市川	船橋	松戸	
ゴルフ			千葉	千葉	浦安	柏	千葉	柏	
ボウリング			習志野	松戸	市川	木更津	千葉	山武郡市	
馬術			印旛郡	山武郡	印旛郡	山武郡	山武郡	香取市	
カヌー			香取	松戸	浦安	浦安	浦安	浦安	

イ 国民体育大会参加者傷害補償制度

日本体育協会及び都道府県体育協会が、国民体育大会の参加者の傷害事故に備えるために制定したもので、都道府県大会以上の国体参加者の傷害事故に対して、参加者の相互扶助により、補償しようとするもので、昭和57年度大会から、国体千葉県大会の参加者に協力を呼びかけている。平成21年度からは、県予選を対象外とし、ブロック大会・本大会のみが対象となった。期間中の事故については、この制度の補償対象として補償金の給付がある。

ウ 平成28年度大会の概要

平成28年度大会は、40競技に約10,000の選手・監督・役員の参加を得て開催の予定である。なお、競技会場及び日程は（公財）千葉県体育協会ホームページで公開している。

(3) 国内スポーツ大会等の共催・後援

各種スポーツ大会等の一層の充実を図り、競技スポーツの発展に資するため、競技団体等が主催する大会等に対し、申請に応じて共催及び後援をしている。過去6年間に共催・後援した大会等は下表のとおりである。

千葉県教育委員会共催・後援事業

年度	22	23	24	25	26	27	28
共催事業	7件	6件	3件	3件	4件	2件	2件
後援事業	96件	95件	95件	95件	99件	100件	82件
補助金等（負担金・補助金）交付事業	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

3 スポーツ大会への派遣

(1) 国民体育大会への選手団の派遣

国民体育大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の体力向上を図るとともに、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するため、昭和21年に京阪神地方で初めて開催され、その後、各県持ち回りで毎年開催されている。昭和63年第43回大会（冬季－群馬・岩手、夏・秋季－京都）から2巡目がスタートし、本年（冬季大会－岩手、本大会－岩手）で71回目を迎える。現在では選手、監督、大会役員などの参加数も4万人を超え、国内最大のスポーツの祭典となっている。

第1回大会から第71回大会までに延べ37,762名の選手団を派遣している。第72回大会はすでに冬季大会が終了し、54名の選手団を派遣した。本大会には、各競技の精鋭を下表の日程で派遣する予定である。

第72回国民体育大会への千葉県選手団の派遣

季別	期日	会場	参加人員又は実施競技
冬季大会	スケート 29年 1月27日～1月31日	長野県長野市	本部11・監督3・選手9 計23名
	スキー 29年 2月14日～2月17日	長野県北安曇野郡 白馬村	本部7・監督2・選手22 計31名
本大会	29年 9月30日～10月10日	愛媛県松山市他	正式競技 37競技 公開競技4競技 特別競技1競技

国民体育大会の年次別派遣人員と競技成績

回数	夏・秋季大会開催会場	派遣数	天皇杯	皇后杯	回数	開催会場	派遣数	天皇杯	皇后杯
1	京都・大阪・滋賀・奈良・兵庫	62			37	島根	639	7	6
2	石川・滋賀	248			38	群馬	629	5	9
3	福岡	278	36	29	39	奈良・兵庫	629	5	10
4	東京・神奈川・千葉・山梨・埼玉	279	16	25	40	鳥取	581	8	13
5	愛知・三重	324	16	23	41	山梨	666	9	9
6	広島・山口・鳥取	343	11	15	42	沖縄	592	20	18
7	福島・宮城・山形・栃木	427	14	27	43	京都	585	11	10
8	愛媛・香川・徳島・高知	425	13	29	44	北海道	629	10	11
9	北海道・奈良	294	19	18	45	福岡	628	10	11
10	神奈川	322	39	39	46	石川	658	9	12
11	兵庫	264	21	28	47	山形	609	13	16
12	静岡	311	21	42	48	香川・徳島	663	10	15
13	富山	292	25	32	49	愛知	655	11	12
14	東京・埼玉	347	24	41	50	福島	540	10	15
15	熊本	317	24	21	51	広島	633	12	15
16	秋田・宮城・福島	309	17	21	52	大阪	645	13	15
17	岡山	387	22	33	53	神奈川	667	9	10
18	山口	374	28	24	54	熊本	613	12	17
19	新潟	369	21	28	55	富山	623	13	16
20	岐阜	409	12	30	56	宮城	654	13	15
21	大分	382	22	22	57	高知	653	12	9
22	埼玉	424	32	23	58	静岡	599	15	11
23	福井	440	32	23	59	埼玉	752	10	11
24	長崎	416	27	33	60	岡山	678	12	11
25	岩手・青森	495	7	25	61	兵庫	731	9	10
26	和歌山	475	19	30	62	秋田	678	8	10
27	鹿児島・熊本	504	12	13	63	大分	562	6	9
28	千葉	965	1	2	64	新潟	630	6	5
29	茨城	558	8	8	65	千葉	1039	1	1
30	三重	594	13	13	66	山口	610	7	6
31	佐賀	565	20	17	67	岐阜	529	7	7
32	青森	573	9	6	68	東京	648	7	5
33	長野	508	16	13	69	長崎	603	10	6
34	宮崎	605	8	6	70	和歌山	637	7	6
35	栃木・千葉・埼玉	626	9	5	71	岩手	601	5	7
36	滋賀	580	7	5					

注) 天皇杯・皇后杯は順位

(2) 国民体育大会関東ブロック大会への選手団の派遣

関東ブロック大会は国民体育大会の関東地区予選として昭和55年神奈川県で初めて開催され、その後関東各都県持ち回りで毎年開催されている。

それ以前は、各競技ごとに予選を実施していたが、総合的に開催されることによって、各都県の親善と友好をより一層深めるとともに、関東地区のスポーツの振興に大きく貢献している。

第72回大会は、冬季大会アイスホッケー競技会がすでに終了し、本県は38名の選手団を派遣した。本大会に係る予選会は8月18日～20日を中心会期として群馬県で開催される。

4 千葉県競技力向上推進本部事業

「2005千葉きらめき総体」や平成22年開催の「ゆめ半島千葉国体」において、本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう計画的・継続的に選手を育成・強化するとともに、この両大会の開催を契機に本県の競技力が一層向上し、併せてスポーツを通じた「ひとづくり」、「地域づくり」を展開する中核的組織として平成14年3月19日（規約の施行）に千葉県競技力向上推進本部を設立した。

推進本部は、関係団体と連携を図りながら諸事業を展開し、その結果、「ゆめ半島千葉国体」では県史上初の完全優勝を達成、本県の競技力の高さを全国に示すとともに、日本一の感動を選手と県民が共有し、スポーツへの参画気運を高めるなど、本県スポーツの発展に大きく寄与している。

今後も、本県の競技力の恒常的な維持・発展を目指し、推進本部を中心として強化事業を展開していく。

(1) 本部委員構成

- 本部長 諸橋省明副知事
- 副本部長 青木克己県体育協会理事，内藤敏也県教育長
- 本部委員 県議会，スポーツ団体，学校関係，企業団体，市町村教育長
学識経験者，整形外科医，臨床心理士，栄養士，スポーツ指導者（合計20名）

(2) 実施事業

① 国体強化

基本施策・事業名	内 容
I 選手の育成・強化，指導者の養成確保 (1) 国体選手強化・サポート事業 (2) ちばジュニア強化事業	国体本大会・国体冬季大会の出場選手強化 ・選手強化支援 強化練習 合宿 県外遠征等 ・国体選手能力活用 ・コーチ、ドクター、トレーナー派遣 ・強化コーチ養成支援 ジュニア年代（小学生～高校生）の発掘・育成・強化 ・選手強化支援 ①ジュニア選手・拠点強化 ②強化型別支援 ③国体選手能力活用 ・競技会開催支援 ・ジュニアコーチ育成支援 ・強化選手、指導者指定
II 競技力向上のための環境整備 (3) 競技用具等の整備事業 (4) トップチーム支援事業	強化練習等に必要な競技用具等の整備 各競技の主軸となる企業運動部、民間スポーツクラブ、大学等を指定し、強化活動を支援
III スポーツ医・科学の積極的な活用 (5) スポーツ選手医事・科学サポート事業	競技の特性や競技者の実情に応じた医・科学サポート ①運動能力測定 測定・相談、障害相談、栄養状況調査 ・相談、ドーピング防止研修会等 ②トレーナー派遣 選手強化及び国民体育大会へのトレーナー派遣 ③メディカルチェック 国体選手の健康診断
IV 調査・研究 (6) 国体選手選考・強化活動調査事業	競技力の現状把握、国体選手の選考等 競技力向上委員会開催（年10回）、強化活動視察（4月～各地）、競技別ヒアリング、先催県等他県調査・研究戦力分析会議（年5回）

②オリンピック・パラリンピック強化

「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」

<オリンピック部分>

基礎強化支援

○国際大会等の視察 ○競技用具の整備 ○選手・チームの招聘 ○外部指導者活用

特別強化支援

○海外遠征 ○国際大会の視察 ○国内遠征 ○強化合宿 ○選手・チームの招聘

○競技用具の整備 ○外部指導者活用 ○医・科学サポート

<パラリンピック部分>

基礎強化支援

○国際大会等の視察 ○競技用具の整備 ○選手・チームの招聘 ○外部指導者活用

○合同練習会・合同合宿

特別強化支援

○海外遠征 ○国際大会の視察 ○国内遠征 ○強化合宿 ○選手・チームの招聘

○競技用具の整備 ○外部指導者活用 ○医・科学サポート

掘り起こし

○競技団体が企画運営する競技体験会

<強化指定選手・団体数一覧>

	オリンピック部分				パラリンピック部分			
	基礎強化		特別強化	選手数 合計	基礎強化		特別強化	選手数 合計
	選手数	団体数	選手数		選手数	団体数	選手数	
平成26年度	411	12	120	531	—	—	—	—
平成27年度	218	13	126	344	50	3	40	90
平成28年度	148	13	144	292	44	3	48	92

(3) 国民体育大会対策委員会総会の開催

選手強化を推進する上で、指導者がそれぞれ研修を深め、資質の向上を図ることは重要なことであることから、県体育協会競技力向上委員会は、指導者としての専門性や総合的な知識を得るため各界の有識者を招請し、国民体育大会対策委員会総会（40競技団体のヘッドコーチ、種別監督等約200人）において講演会等を開催し研修に努めており、平成15年度からは、千葉県競技力推進本部の主催により行っている。

過去の講演会・講演者一覧

年度	役職等	氏名	演題
55年	日本体育協会競技力向上委員会	神山 信義	
56年	日本サッカー協会専務理事	岡野俊一郎	「競技スポーツの強化方策」
57年	順天堂大学教授	太田 哲男	「精神力のトレーニング」
58年	日本バレーボール協会専務理事	松平 康隆	「負けてたまるか！！」
59年	サッカー ヤンマーディーゼル監督	釜本 邦茂	「我がサッカー人生」
60年	日本体操協会女子ナショナルチーム強化部長	塚原 光男	「ジュニア強化対策と競技力向上」
61年	東海大学教授	佐藤 宣践	「スポーツにおける指導者の役割」
62年	元早稲田大学教授 JOC 委員	大西鉄之祐	「勝チームを作るために」
63年	日本体育協会公認スポーツドクター	霜 礼次郎	「チャンピオンへの道」

	[小計]	0	0	0	1	5	0	1		7			
本 大 会	1 陸上	1	1	6	1	6	3	1		19	⑥	⑤	
	2 水泳	5	12	8	4	5	1	9	2	46	⑦	⑦	
	3 サッカー			15						15	⑦		
	4 テニス									0			
	5 ボート					2				2			
	6 ホッケー									0			
	7 ボクシング	1	1			3					5		
	8 バレーボール									0			
	9 体操	15			5						20	①	④
	10 バスケットボール					11					11		
	11 レスリング	1	1	5		2					9	④	①
	12 セーリング			2		1					3		⑦
	13 ウェイトリフティング	3		1		1					5		③
	14 ハンドボール				12	12					24	⑤	
	15 自転車		1		1						2		⑦
	16 ソフトテニス				5		10				15	④	②
	17 卓球										0		
	18 軟式野球										0		
	19 相撲					5					5	⑧	
	20 馬術	6	2	1			1		1		11	②	
	21 フェンシング										0		
	22 柔道			8							8	⑤	⑦
	23 ソフトボール	13									13	⑤	②
	24 バドミントン			3							3		⑥
	25 弓道			3			3	3	3		12		
	26 ライフル射撃		1		1			1	1		4		
	27 剣道		3								3		⑤
	28 ラグビーフットボール			11							11	⑧	
	29 山岳	2		2			4				8	④	⑦
	30 カヌー	2	2		2	2	1	1			10	⑤	
	31 アーチェリー										0		
	32 空手道				1						1		
	33 銃剣道		2								2	④	
	34 クレー射撃										0		
	35 なぎなた	6	2	1	1				5		15	①	①
	36 ボウリング	3								3	6	③	⑧
	37 ゴルフ	1	1								2	②	①
	[小計]	59	29	66	33	50	23	20	10	290			
	合計	59	29	66	34	55	23	21	10	297	18	16	

5 スポーツ団体の育成

公益財団法人千葉県体育協会（以下、県体育協会という）及びその加盟団体は、県内スポーツの普及・育成と競技力向上の2大目標に向かって事業の推進に当たっている。

県体育協会は県民体育大会、国体千葉県大会など競技会の開催、各種講習会の開催、指導者養成等の各種講習会の開催、スポーツ少年団活動、スポーツ医事・科学の研究など、本県スポーツを総合的・計画的に推進している。このため、県体育協会に対し助成を行い、こうした諸事業の自主的な活動の推進と円滑な運営を図っている。

(1) 組織の確立

県民の健康体力に対する関心が高まるにつれて、自らスポーツを実践しようとする人々が増加してきているため、多くの競技種目において、各年齢層の多様なニーズに対応する適切な指導、組織整備の確立が求められている。

このため、県体育協会をはじめ各競技団体など県を統括する諸団体事務局と密接な連携が保たれるような対策が必要である。「ゆめ半島千葉国体」開催を契機に、一層の連携・協力を図り支援及び協力体制の確立を進めていく必要がある。

(2) スポーツ指導者の育成

公益財団法人日本体育協会は、都道府県体育協会と認定競技団体の推薦により、競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者と競技種目を横断する知識・技能を有する指導者の資格認定及び養成事業を行っている。本県の競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者は、5,999名（旧資格を含む）となっている（平成28年10月登録分）。競技人口の増加、参加層の拡大の時代にあつて、スポーツ指導者の正しいモラルと専門性の高い知識は一層必要とされるものであり、このようなスポーツ指導者資格取得を推奨するとともに、登録指導者の活躍の場も一層広げられるよう検討する必要がある。

（参考：公認スポーツ指導者制度オフィシャルブック 2016）

公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者

ア	競技別指導者（指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）	4,917人
イ	スポーツトレーナー（旧資格）	8人
ウ	スポーツプログラマー	242人
エ	フィットネストレーナー	24人
オ	ジュニアスポーツ指導員	219人
カ	アスレティックトレーナー	216人
キ	スポーツドクター	178人
ク	スポーツデンティスト	6人
ケ	スポーツ栄養士	4人
コ	アシスタントマネージャー	171人
サ	クラブマネージャー	14人

千葉県公認スポーツ指導者登録状況
(2016年10月登録分)

(人)

競技	資格			指導員			コーチ			教師			合計
	指導員	上級指導員	小計	コーチ	上級コーチ	小計	教師	上級教師	小計				
1 陸上競技	59	3	62	39	12	51	-	-	0	113			
2 水泳	212	12	224	112	23	135	102	11	113	472			
3 サッカー	1,388	-	1,388	215	93	308	-	-	0	1,696			
4 スキー	7	63	70	1	1	2	0	3	3	75			
5 テニス	60	54	114	7	8	15	24	11	35	164			
6 ボート	5	0	5	10	2	12	-	-	0	17			
7 ホッケー	2	0	2	13	2	15	-	-	0	17			
8 ボクシング	-	-	0	6	0	6	-	-	0	6			
9 バレーボール	240	9	249	24	10	34	-	-	0	283			
10 体操	9	0	9	41	4	45	-	-	0	54			
11 バスケットボール	215	0	215	28	5	33	-	-	0	248			
12 スケート	4	-	4	3	0	3	5	-	5	12			
13 レスリング	8	-	8	1	1	2	-	-	0	10			
14 セーリング	21	4	25	2	3	5	-	-	0	30			
15 ウエイトリフティング	4	-	4	3	1	4	-	-	0	8			
16 ハンドボール	15	0	15	11	4	15	-	-	0	30			
17 自転車	6	-	6	14	1	15	-	-	0	21			
18 ソフトテニス	47	5	52	2	2	4	-	-	0	56			
19 卓球	104	41	145	25	2	27	-	-	0	172			
20 軟式野球	49	-	49	3	-	3	-	-	0	52			
21 相撲	3	-	3	0	-	0	-	-	0	3			
22 馬術	0	-	0	26	-	26	-	-	0	26			
23 柔道	12	-	12	14	2	16	-	-	0	28			
24 ソフトボール	200	26	226	16	4	20	-	-	0	246			
25 フェンシング	17	-	17	5	0	5	-	-	0	22			
26 バドミントン	38	39	77	4	2	6	-	-	0	83			
27 弓道	174	0	174	3	-	3	-	-	0	177			
28 ライフル射撃	0	0	0	5	2	7	-	-	0	7			
29 剣道	54	20	74	-	-	0	-	-	0	74			
30 近代五種	-	-	0	-	-	0	-	-	0	0			
31 ラグビーフットボール	49	2	51	33	6	39	-	-	0	90			
32 山岳	19	10	29	-	2	2	-	-	0	31			
33 スポーツクライミング	7	8	15	0	-	0	-	-	0	15			
34 カヌー	10	-	10	11	0	11	-	-	0	21			
35 アーチェリー	28	0	28	1	-	1	-	-	0	29			
36 空手道	113	28	141	23	15	38	-	-	0	179			
37 アイスホッケー	2	-	2	-	-	0	-	-	0	2			
38 銃剣道	5	3	8	-	-	0	-	-	0	8			
39 クレー射撃	11	-	11	-	-	0	-	-	0	11			
40 なぎなた	70	11	81	9	1	10	-	-	0	91			
41 ボウリング	20	0	20	3	0	3	0	0	0	23			
42 ポブスレー・リュージュ・スケルトン	-	-	0	0	1	1	-	-	0	1			
43 綱引	3	-	3	-	-	0	-	-	0	3			
44 ゲートボール	40	0	40	-	-	0	-	-	0	40			
45 ゴルフ	6	-	6	-	-	0	-	-	0	6			
46 カーリング	7	0	7	-	-	0	-	-	0	7			
47 パワーリフティング	9	-	9	-	-	0	-	-	0	9			
48 グラウンド・ゴルフ	6	-	6	-	-	0	-	-	0	6			
49 トライアスロン	18	-	18	-	-	0	-	-	0	18			
50 バウンドテニス	5	0	5	-	-	0	-	-	0	5			
51 エアロビク	24	1	25	0	0	0	1	0	1	26			
52 バイアスロン	-	-	0	-	-	0	-	-	-	0			
53 ローラースポーツ	-	-	0	-	-	0	-	-	0	0			
54 ダンススポーツ	4	-	4	1	-	1	-	-	-	5			
55 アメリカンフットボール	16	-	16	-	-	0	-	-	-	16			
56 プロゴルフ	-	-	0	-	-	0	6	7	13	13			
57 プロテニス	-	-	0	-	-	0	14	15	29	29			
58 職業スキー	-	-	0	-	-	0	0	5	5	5			
59 スクーバ・ダイビング	21	5	26	-	-	0	-	-	-	26			
60 その他	0	0	0	0	-	0	-	-	-	0			
合計	3,446	344	3,790	714	209	923	152	52	204	4,917			

注:「-」は現在養成を行っていない資格・競技。

※競技別資格の登録者数を競技・資格別にまとめたものである。この表では同一資格で異なる競技を有する場合にはそれぞれの競技に1人分を計上した。